

鉄釉叩き耳付き水指（てつゆうたたきみみつきみずさし）

～県重要文化財～

本作品唐津焼形成技法の特徴である叩きの技法でつくられており、桃山から江戸時代初期の叩き唐津の代表的な茶陶の作例である。内部には青海波状の当て木の跡が残されており、底部は平たく、直径1.5cm程度の小さな足が三方に付く。叩きの技法で基本的な形をつくるが、さらに形を変化させ線彫り等の装飾を加えて作品性を高めている。器形を意図的に歪める意匠は陶磁の茶陶で流行しており、本作品もそうした傾向にそったものと考えられる。釉薬の焼成は良好で、落ち着いた色調の釉薬が変化に富んだ形態と調和している。

なお、蓋は出土品であり、本水指とは後世に一具になったものであるが、本水指と同時期に同地区で制作されたものと考えられる。

平成14年3月6日指定

所 蔵 唐津市教育委員会

工芸品

分 野 歴史

地 域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



鉄釉叩き耳付き水指

（『唐津市の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html